

メール相談から見える 10 代の妊娠の背景

～にんしんにまつわるすべての「困った」「どうしよう」に寄り添うために～

一般社団法人にんしん S O S 東京 松下清美
(NPO 法人デート DV 防止全国ネットワーク理事)

一般社団法人「にんしん SOS 東京」は、2015 年より「妊娠にまつわるすべての困ったどうしよう」に寄り添う妊娠葛藤相談支援窓口を開設している。本支援窓口は、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、医師等の多職種が協力し、メール・電話相談及び面接相談、病院や地域の保健センター等関係機関への同行支援を総合的にきめ細やかに行っている。加えて、2017 年に設立した「デート DV 防止全国ネットワーク」で、恋人間暴力の予防教育実施団体としても共に活動に参加している。

当法人は、ウェブサイト『にんしん SOS 東京 思いがけない妊娠の相談窓口 (<https://nsost.jp/>)』を開設し、ここからメール相談フォームに入っていくことができるようにしている。妊娠をあえて「にんしん」とひらがな表記にすることで、妊娠葛藤を抱えた当事者に、少しでも相談しやすい気持ちを持ってもらえるような工夫をしている。

今回報告したのは、2015 年 12 月から 2018 年 5 月までの 18 カ月の期間の初回相談の総数は、1455 件。その内、高校生からの相談総数は、234 件で、全相談総数の 16%程になっている。報告資料に示されているように (添付グラフ参照)、それぞれの月の相談件数における割合も、高校生からの相談は常に 1 割から 3 割程度を占めている。

今回の報告では、高校生として「15 歳・16 歳・17 歳」と年齢を限定し定義づけているが、詳しく相談年齢の分布を見てみると、15 歳=17%、16 歳=35%、17 歳=41%、年齢不明が 7%となっている。また、これらの相談は「妊娠したかもしれない」と悩む当事者本人 (約 8 割)に限らず、周囲の人々である家族、友人からも寄せられており、当事者のパートナー (男性)からの相談も 16%ある。

なお、高校生からの相談ケース 234 件の内、相談の対象属性において、妊娠の危険がある「本人 (以下、当事者と記載)」と回答しているケースは、191 件であった。なお、本白書のテーマである「デート DV に該当する相談」であると相談員が判断した相談はその内の 37 件であり、全体の約 2 割に当たる「5 人に 1 人」であった。

デート DV か否かの判断基準として、以下の 3 点を挙げる。

- ①避妊なしの性行為があったケース
- ②同意のない性交 (不同意性交) があったケース
- ③対等な関係ではないケース